

## 新理事プロフィール

～新しく理事になられた先生方をご紹介します～



いとう しんいち 理事  
伊藤 真一 理事

- ◇下関市医師会
- ◇腎臓内科

今回、新たに山口県医師会理事に就任されました伊藤真一先生をご紹介します。

昭和 45 年 9 月下関市の生まれで現在 47 歳、山口県医師会の現裁定委員の伊藤 肇 先生のご子息です。平成 9 年 3 月福岡大学医学部を卒業後、同年 5 月に山口大学第二内科に入局されました。入局後は腎臓グループに所属され、山口大学附属病院、山口労災病院、岩国医療センター医師会病院にご勤務され、平成 14 年に学位を取得、平成 15 年 11 月、アトランタのエモリー大学循環器内科に留学されました。留学は前任者もない所に急遽決まった事で、当時 4 歳の娘さんと 1 歳の息子さんを抱えての留学でセットアップ等は大変ご苦労されたとのこと。2 年間の研鑽の後、平成 17 年 12 月から山口大学附属病院第二内科に戻られ、平成 20 年 6 月より済生会下関総合病院腎臓内科に勤務され、平成 22 年 10 月より、いとう腎クリニック院長として透析医療を行われております。同じ法人に CT、MRI を擁する伊藤内科医院、デイケアセンターがあり、医療・介護・透析が連携した、質の高い医療を提供されております。

下関市医師会には平成 20 年に勤務医の時からご所属頂いており、平成 28 年に下関市医師会理事に就任し、検診・検査センター担当理事、総務・

会員福祉副担当事務を担当して頂きました。就任当初より堂々とした発言、的確な仕事ぶりに大変驚かされました。特に、会員福祉副担当として、夜の理事会のセッティングには類い稀なる才能を発揮されました。

私と伊藤先生は福岡大学医学部の同窓生であり、学生時代から存じ上げております。伊藤先生が 2 年後輩にあたり、山口県人会、共通の友人を介して等で席を共にすることがありました。当時の印象としては、性格は温厚篤実、常に笑顔で、上下関係をきちんとわきまえて人と接することができ、皆から愛されるキャラクターの持ち主でした。ボート部に所属していましたが、筋肉隆々ではありませんでした。済生会下関総合病院勤務で下関に戻られた際に久しぶりにお会いした伊藤先生は、循環器、腎臓、透析の専門医として臨床経験を積み、卓越した技量を持つ内科医となっておられましたが、性格は昔のままの穏やかなままであり安心したのを覚えております。

山口県医師会の理事としての職務は重責であり、質、量、時間的にも大変なご苦労があるかは存じますが、伊藤先生の前向きな性格であればすべての困難を乗り越えることができると確信しております。今後の活躍を期待しております。

[記：下関市医師会 上野 雄史]



よしみず いちろう  
吉水 一郎 理事

◇下関市医師会

◇消化器内科

本年度より新たに山口県医師会理事に就任された吉水一郎先生についてご紹介いたします。

吉水先生は、昭和 47 年生まれの 46 歳で、恐らく過去の山口県医師会理事に就任された先生方の中でも、最も若い 1 人ではないかと思えます。昭和 47 年を振り返ると、札幌で冬季オリンピックが開催され、田中角栄氏が「日本列島改造論」をぶち上げた、まさに高度成長真っ盛りの年でした。テレビからは小柳ルミ子の「瀬戸の花嫁」や山本リンダの「どうにもとまらない」が流れ、書店では有吉佐和子の「恍惚の人」が売れた時代です。「ついこのあいだ」と思われる先生もいらっしゃると思えます。

先生は、平成 11 年の福岡大学ご卒業で、母校の消化器内科（旧内科学第 1）に入局されました。教室では主に肝疾患の診療、研究に従事されたと伺います。福岡大学病院や糸島医師会病院で臨床実務を積まれた後、平成 17 年にご実家である医療法人茜会吉水内科に勤務される形で下関に帰ってこられました。お父様は、医療法人茜会を一代で築き上げられた吉水卓見先生です。一時期、北九州市立門司病院が医療法人茜会を指定管理者とした際に、市立門司病院の経営環境を整備するためにそちらに赴かれましたが、経営が軌道に乗った段階で平成 22 年より再び下関市内の医療法人茜会昭和病院および吉水内科で活躍しておられます。

特定医療法人茜会は、グループ法人である社会福祉法人暁会とともに下関地区の医療介護コンプレックスを形成する一大組織です。北九州地区や首都圏にも事業範囲を拡大され、看護学校の経営も手がけられています。保育所から、急性期医療、回復期リハ、在宅医療、高齢者施設まで幅広い医療介護事業を手がけられ、この地域にはなくてはならない存在となっています。

下関市医師会理事会には、平成 28 年より 1 期理事として参加され、夜間急病診療所の運営や産業保健の分野で手腕を振るわれました。理事会の中では地域医療構想に興味を持たれ、特に慢性期病床の削減計画では多くのご発言がございます。

プライベートでは、まだ小さなお子さんがいらっしゃることで、育児にも精通され、良きパパぶりを発揮されるかと思えば、ご趣味のモータースポーツも健在と伺っています。また、地元選出の代議士とも親交があり、春には東京の桜を見るお姿もございます。

この地域を代表する医療介護コンプレックスの経営者が県医師会の運営に参加することは意義深いと思います。下関や北九州では一定の成果を上げての今日ですが、まだまだ未知数のところがあります。先生の今後の活躍に期待したいと思います。

[記：下関市医師会 赤司 和彦]



郷良 秀典 理事

◇山口市医師会  
◇外科

このたび山口県医師会理事に就任された郷良秀典先生をご紹介します。

先生は昭和60年に山口大学医学部をご卒業後、同大学第一外科教室に入局されました。入局後は済生会山口総合病院をはじめ各病院に勤務され心臓外科医として研鑽を積まれました。平成4年には米国シアトルのワシントン大学心臓胸部外科にも留学され、研究に従事されるとともに海外での生活や文化にも親しまれました。

平成6年に大学病院に戻られましたが、翌年5月には第一外科に入局した私の指導医になっていただきました。その時にご指導いただいたことが、いまだに私の外科医としての基本となっています。技術的、知識的なものはもちろんのこと、外科医は患者さんを傍で診るものだという心構えとか気概というものを教えていただきました。また、臨床のみならず研究や学会発表などの重要性や、先生ご自身の留学体験からいつか海外留学をするように勧められたことも、外に目を向けるといった意識につながりました。家庭も大切にしておられ、自宅のパーティーに私をお招きいただいたこともありました。その時にレクリエーション用にテレビゲームを持って行ったがために、お子さんたちの勉強に支障をきたすようになってしまったことは申し訳なく思っています・・・このように私が医者1年目の時は公私にわたりお世

話になりましたが、その12年後に今の病院で再びご一緒することとなったのも何かのご縁と思います。

その後、郷良先生は平成8年には岡山大学心臓外科に国内留学され更なる研鑽を積み、平成13年には現在の済生会山口総合病院に赴任されました。平成22年に外科の小田達郎先生、古川昭一先生のご退職に伴い部長として先頭にたたれることとなり、科を牽引しつつ病院全体の業績にも貢献されています。新しい試みや意見を柔軟かつ積極的に採用しサポートされる姿勢はすばらしく、我々が安心して仕事をしつつも新しいことにチャレンジできる環境を作っていただいています。貴重なご意見をいただくことも多く、日々の仕事に追われていると目先の事で手一杯となり後回しになってしまう将来的なことも見据えておられるのが感じられます。平成24年からは院長補佐、同30年より副院長に就任され、その活動は病院のみならず地域医療の発展のため外部にも精力的に広がっています。

このたび、山口県医師会の理事に就任され大変うれしく思います。ただでさえ忙しい心臓外科医+副院長業務に加え、さらに多忙になられるでしょうが、お身体には気をつけていただき、益々のご活躍を心から祈念致します。

[記：山口市医師会 齋藤 聰]



かわむら いちろう  
河村 一郎 理事

◇徳山医師会

◇小児科

今回、新しく理事になられた河村一郎先生をご紹介します。

河村先生は、昭和36年3月、山口県でお生まれになりました。徳山高校を卒業された後、広島大学へ入学され、大学卒業後は小児科医であるお父様の河村實雄先生と同じ道を歩まれ、広島大学小児科学教室に入局され、広島赤十字原爆病院、倉敷中央病院の小児科に勤務された後、平成10年より旧徳山市（現周南市）でかわむら小児科を開業しておられます。お嬢様も昨年春、医師国家試験に合格され、祖父・父と同じ医師としての道を歩まれているとのこと。また、山口県小児科医会理事として15年以上、総務理事として10年以上務めておられ、山口県医師会乳幼児保健委員としても長く活動されるなど、山口県小児科医会と山口県医師会との連携のパイプ役として満を持して理事に就任されました。

と、表向きの顔を紹介いたしましたが、ここからは河村先生の裏の顔を紹介したいと思います。まず、先生のご趣味の一つにウォーキングがあり、下関維新海峡ウォークや、今年で最後になりましたが山口100萩往還マラニック大会に毎年参加され、ワクチン接種啓発Tシャツを着て歩かれているのはさすがです。また、徳山医師会の小児

科の先生を中心としたバンドを結成され、担当はアルトサクソで、毎年ライブを開催されています。サクソスの腕前は、私はまだ実演を聴いたことがないのですが、人伝に聞いた話では素晴らしいとのこと。最近、バリトンサクソスも買われたそう。さらに、ワインにも造詣が深く、徳山医師会のワインの会では毎回美味しいワインを提供され、趣味が高じてフランスのワイナリーツアーにも参加されています。

仕事にも遊びにもパワフルな河村先生です。これからますます忙しくなられ、徳山の夜の街が少し寂しくなると思いますが、ご活躍をお祈りします。

[記：徳山医師会 津永 長門]



はせがわ なつえ  
長谷川 奈津江 理事

◇宇部市医師会

◇眼科

今回新理事に就任されました長谷川奈津江先生をご紹介します。

長谷川先生は下関市のご出身で梅光女学院中学、高校を卒業後、山口大学医学部に入学、平成元年にご卒業後、同眼科学教室に入局されました。

その後、宇部興産中央病院、国立下関病院（現、関門医療センター）、山口大学眼科学教室（助手）に勤められた後、平成 10 年には長谷川眼科琴芝クリニックを開院、現在まで地域医療に貢献されております。また、ご主人の長谷川眼科（小野田市）でも勤務され、ご多忙の日々を過ごされております。子育てをしながらそのような仕事ぶりされることは、相当のスーパーウーマンと認識しておりました。

私は同じ眼科関係で繋がりも多かったのですが、長谷川先生はとてもきさくな性格ですが、一方で目立った行動をとることはおそらく控えておられると感じていました。長身の先生が溘溘と活躍されることを想像し「先生の出番が来るからね。」といった声掛けをしていました。まさにその時がきたと感じております。

県医師会では広報委員を約 10 年務められ、多くの情報を会員に発信する役割と、深い洞察力に富んだ文章を執筆することを担っておられました。

その間、県医師会の様子に触れられており、今後、先生が県医師会の理事として大いにご活躍されることは疑いありません。

そのエネルギーの根源がどこにあるのかと常に思っていたのですが、最近特に感じることは、知識の深さや幅広さからきているのではないかと思ひ当たりました。

先生の趣味をきいたところ、「ありきたりですが、読書です。」とのことでした。いままでのご活躍からその内容が相当幅広い分野にわたるものと推察しています。

山口県眼科医会は以前より県医師会との繋がりを希望しておりましたが、前理事の舩津先生に続き、この度、宇部市から長谷川先生が理事に就任されることは大変ありがたいことです。高齢化社会の進展の中、眼科も大きな役割を担っており、ぜひ医師会活動とも連携する必要があります。

女性医師は若いころ子育てなどで活躍に制限がかかってしまう人もおられますが、これらの人は 45～50 歳から 100% パワー全開の医師生活になられます。長谷川先生におかれましてはまさに充電十分のご活躍年齢を迎えられており、今後のご活躍に期待しております。

〔記：宇部市医師会 鈴木 紘子〕